

3/11反原発福島行動へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2018年1月11日
祝! No.500

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

祝500号「学生運動についての雑感」

弁護士・葉山岳夫(60年安保闘争時・東大法学部自治会委員長、全学連中央委員)

私は、いま、弁護士をしています。81歳です。

1956年に東大に入学、同年10月の砂川基地拡張反対闘争に一般学生として参加、機動隊に頭部を乱打され、頭皮を割られて流血のまま逮捕、黙秘で釈放されるという体験をしました。「流血の砂川事件」と言われています。国家権力の暴力性、理不尽性について身をもって体験しました。1958年に法学部に進学、直後に日本共産党に入党しました。当時の東大細胞の指導部は、「日本共産党の二段階革命は、間違っている。プロレタリア世界革命の一環としての日本プロレタリア社会主義革命でなければ

ならない」と考えていました。日共中央と党内闘争をやるために入れという先輩のオルグで入党しました。

当時の法学部自治会(「緑会委員会」とも言いました)は、ノンポリ右派ともいうべき学生が執行部を占めていました。法学部細胞の仲間を中心に密議をこらして、立候補して、選挙闘争をやろうということで、選挙闘争を展開、僅差で勝利して執行部を奪取しました。

細胞活動は、決定的な意味があります。なお、日共東大本郷細胞は、百数十人のメンバーがいましたが、1959年春の細胞総会で「今後この細胞は、共産主義者同盟東大



1・6 動労千葉新年旗開きにて(写真中央)



国会南通用門の扉を壊し国会構内突入をめざす全学連(60年6月15日)

福島から改憲・戦争を止めよう 原発・オリンピックを打ち砕こう

3.11反原発福島行動'18

〈日時〉 3月11日(日)13時~ ※12時開場 ※15時デモ出発

〈場所〉 郡山市民文化センター・大ホール

〈呼びかけ〉 3・11反原発福島行動実行委員会

〈メール〉 3.11fukushimaaction@gmail.com



本郷細胞に転換する」という動議を圧倒的多数で決議して共産主義者同盟(略称は「ブント」として)として出発しました。安保闘争大爆発の原動力です。

日米安保条約改定反対闘争は、58年から巨大な政治闘争になると分析してほとんど注目されないなかで懸命にビラ、パンフをくばり、全学連独自のデモを闘いましたがなかなか大衆的に理解されませんでした。教室入り口でのビラ配りとか教室内での演説などができたことは、現在の法政大学などの状態からは、考えられないことですが、それができたことは、学生諸君を運動に組織するには、有利な状況でした。

ところで『前進』全学連新年座談会の中で学生自治会の依拠する立場として、価値観が多様化しても学生という立場は変わっていないのでそこに依拠することが学生自治会にとって重要だという意見がありました。そのとおりだと思います。学生の立場は、概して小ブルインテリゲンチヤの状態にあるわけで、社会、政治、世界を比較的自由的な立場で考察できます。いまの世の中、資本主義体制、新自由主義を批判的に考察し、資本主義が消滅、変革されるべき歴史的な存在であること、資本主義体制を変革することではじめて、労働者階級の解放がかちとられることなどという認識に到達するには、インテリゲンチヤとしての知的分析力と学生運動の実践が不可欠だとも思います。学生運動のなかでこそ、変革の主体である労働者階級の立場に身を投じる学生が現れるのだと思います。マルクスもエンゲルスもレーニンも学生時代の運動、考察、労働者階級に対する一体感、連帯感によって革命家になったのかと思います。

学生運動は、革命運動として、巨大な意義があります。60年安保闘争は、安保条約改定阻止ができず敗北しましたが岸首相を倒す大きな成果をあげました。学生運動は、学生を組織して運動を造ること、すなわち大衆闘争を展開することで労働運動、農民運動さらには革命運動にとって同盟軍的な地位を占めることができると思います。中国における5.4運動、朝鮮における3.1運動など歴史的闘いになりました。学生運動の高揚で、労働者、農民と同盟して政権と直接対決し、これを打倒することができることは、歴史的に明らかです。それには、学生大衆

を結集する基本的方針とそのために行動する必要性を説得的かつ具体的に提示することが必要かと思えます。言うまでもないことですが、世界革命という正しい路線であっても、無媒介的に提起しても大衆を動かすことはできません。たとえば安倍の企む改憲攻撃の内容を分析し、その意図するところを暴露し、いま何をなすべきかを提起することが必要だと思えます。

京大で軍事研究反対の闘争が闘われました。これは、きわめて意義のある闘いだとも思います。私が法学部自治会の委員長の時、安保闘争の一環として東大本郷のほぼ全学部が共闘して軍事研究反対闘争を闘ったことがありました。大学は、激甚な反応を起こしました。この闘いの頂点で、授業時間内の銀杏並木集会を大学当局の妨害と闘って断行しました。この集会の責任者として私は無期停学処分になりましたが、この闘いなどで学生諸君は、安保闘争の重要性を認識したこともあって59年11月27日の国会前での国民会議による反対闘争に一千名近くの学生が本郷から参加しました。東大、法大などの学生部隊が国会構内になだれ込み、ついで国労、全通、日教組など約3万人の労働者が国会構内を埋め尽くしました。安保闘争が大衆闘争としてはじめて爆発したといえます。これで私は、逮捕、起訴され、有罪とされました。

以上、私の学生自治会活動をもとにした雑感を述べました。今の学生運動は、当時に比べてはるかに厳しい状況のなかで団結をたかめて粘り強い闘いを続け、大きく前進していることに敬意を表します。大衆闘争としての学生運動は、もう一歩で大爆発すると確信しています。過去の学生運動についてきわめて不十分なことを述べましたが一つの参考意見として読んでくだされば幸いです。



国会構内になだれ込んで占拠する労働者・学生の部隊(59年11月27日)

1・22通常国会開会日弾劾行動

1月22日(月)12~13時

永田町・参議院議員会館前

呼びかけ：全学連

※「全学連」の青い旗が目印です。